

2. 火山の概況

(平成18年6月2日～平成18年6月8日)

【噴火が観測された火山】

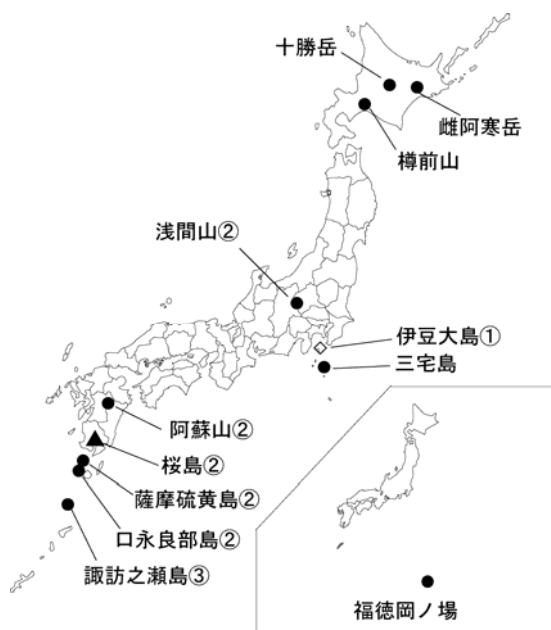
- ▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル2)] : 4日以降桜島南岳東側斜面の昭和火口付近で小規模な噴火活動が続いている。

【活動が活発もしくはやや活発な状態である火山】

- 雌阿寒岳 [活発な状況] : ポンマチネシリ山頂の赤沼火口や北西側斜面では活発な噴煙活動が続いている。
- 十勝岳 [やや活発な状況] : 噴煙活動が活発で、62-2火口の高温状態が続いていると推定される。
- 樽前山 [やや活発な状況] : A火口及びB噴気孔群の高温状態が続いていると推定される。
- 浅間山 [やや活発な状況(レベル2)] : 噴煙活動はやや活発で、火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。
- 三宅島 [やや活発な状況] : 多量の火山ガスの放出が続いていると推定される。
- 福德岡ノ場 [やや活発な状況] : 4日に変色水が確認された。
- 阿蘇山 [やや活発な状況(レベル2)] : 中岳第一火口内の熱活動はやや活発な状態が続いている。
- 薩摩硫黄島 [やや活発な状況(レベル2)] : 噴煙活動のやや活発な状態が続いている。
- 口永良部島 [やや活発な状況(レベル2)] : 火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。
- 諏訪之瀬島 [活発な状況(レベル3)] : 5～8日に火山性連続微動が観測された。

【静穏な状態であるが観測データに変化のあった火山】

- ◇ 伊豆大島 [静穏な状況(レベル1)] : 6～8日に西方海域を震源とする地震が一時的に多発した。



注1 本資料中で記したレベルとは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルを言う。

注2 記号の意味

▲ : 噴火した火山

● : 活動が活発もしくはやや活発な火山

◇ : 静穏な状態だが観測データに変化があった火山、もしくはその他の記事を掲載した火山

①②等の丸付き数字 : 火山活動度レベル

注3 記事は、▲、●(注2参照)に該当する火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

図1 今期間掲載した各火山の活動状況

【各火山の活動解説】

各記号の意味は次のとおり。▲：噴火が観測された火山。●：活動が活発もしくはやや活発な状態である火山。◇：静穏な状態であるが観測データ等に変化があった火山、もしくはその他の記事を掲載した火山。

● 雌阿寒岳 [活発な状況]

ポンマチネシリ山頂の赤沼火口や北西側斜面の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 100m で推移した。

火山性地震は 1 日あたり 3 回以下で推移し、地震活動は低調な状態が続いている。火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では特段の変化はなかった。

● 十勝岳 [やや活発な状況]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 100m で推移した。噴煙の活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。GPS による地殻変動観測では特段の変化はなかった。

● 樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特に変化はみられていないことから、これらの火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。GPS による地殻変動観測では特段の変化はなかった。

● 浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は火口縁上 100～200m で推移した。今期間、火映は観測されなかった。

火山性地震の回数は 1 日あたり 12～38 回とやや多い状態で経過した。火山性微動は 4 日に 1 回、8 日に 2 回観測された。傾斜計及び GPS による地殻変動観測では特段の変化はなかった。

◇ 伊豆大島 [静穏な状況（レベル 1）]

6～8 日に、島の西方海域の深さ約 4～6 km を震源とする地震が一時的に多発し、伊豆大島町元町で震度 1 となる地震が 5 回発生した。最大規模の地震は 7 日 18 時 41 分に発生した M（マグニチュード）2.6（暫定）であった。その後、地震活動はほぼ落ち着いた状態に戻っている。傾斜計及び GPS による地殻変動観測では特段の変化はなかった。

伊豆大島西方海域では、これまでもしばしば地震の一時的な多発がみられており、今年 1 月 5～9 日にも発生している。

● 三宅島 [やや活発な状況]

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は火口縁上 200～300m で推移した。

7 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,600～2,600 トンと依然として多量の火山ガスの放出が続いている（前回 5 月 15 日 900～1,700 トン/日）。

火山性地震の回数は 1 日あたり 5～19 回とやや多い状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では特段の変化はなかった。

● 福德岡ノ場 [やや活発な状況]

4 日に海上保安庁が上空から行った観測によると、福德岡ノ場付近で火山活動によるとみられる直径約 20m の薄い青緑色の変色水が確認された。

● 阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）]

中岳第一火口内の熱活動はやや活発な状態が続いている。

6 日に行った現地観測によると、中岳第一火口の湯だまり¹⁾の量は約 6 割で前回（5 月 31 日：約 7 割）に比べ減少し、表面温度²⁾も 76℃ と高い状態が続いている（前回 5 月 31 日：76℃）。また、ごく小規模

な土砂噴出が確認された。

火山性連続微動の振幅は小さい状態が続いている。孤立型微動及び火山性地震の発生状況、噴煙活動、地殻変動等その他の観測データに特段の変化はなかった。

- 1) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象などが起こり始めることが知られている。
- 2) 赤外放射温度計による。赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル2)]

京都大学防災研究所附属火山活動研究センターから、6月4日13時頃調査した結果桜島昭和火口³⁾付近(南岳東側斜面標高約800m付近)(図2)から高さ100～200mの有色噴煙が間欠的に上がっているのを確認した、との連絡があった(図3)。その後も5日朝まで火山灰を含む有色噴煙が時々観測され、ごく小規模な噴火が断続的に発生していたと考えられる。噴火は一旦停止したが、6日10時前後に噴煙高度200mのごく小規模な噴火が発生し、7日17時30分には噴煙高度1000mの小規模な噴火があり(図4)、その後もごく小規模な噴火が断続的に発生した。

今回の噴火活動は、従来の南岳山頂火口とは異なる場所から発生しており、4日以降現在まで小規模ながら噴火活動が続いている。

火山性地震はやや多い状態が続いており、5日には振幅のやや大きいA型地震⁴⁾を2回観測した。火山性微動はやや少ない状態で、GPSによる地殻変動観測にも大きな変化はなかった。

3) 昭和14年10月26日に南岳東側斜面(海拔750m付近)から小規模噴火が発生し、同月29日には小規模な火砕流も発生した。噴火はその後もしばしば繰り返され、昭和21年1月以降活発化して3月には南岳東側斜面(海拔800m付近)から溶岩を流出した。最後の噴火は昭和23年7月27日の小規模噴火。

4) 火山性地震には、通常の構造性地震と同じようなP波やS波が明瞭で高周波の波動からなるA型地震と、P波やS波が不明瞭な低周波のB型地震がある。桜島のA型地震はマグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされている。

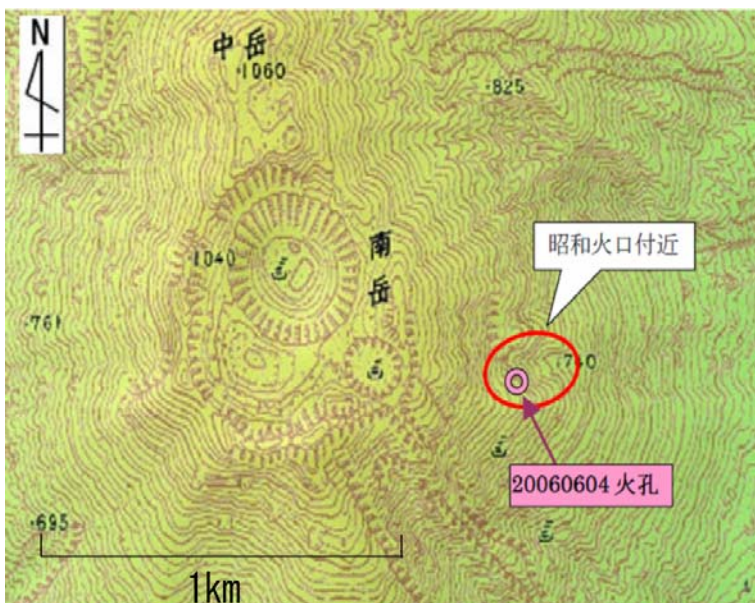


図2 4日に発生した噴火の位置



図3 4日15時20分頃の噴煙（京都大学防災研究所附属火山活動研究センター撮影・提供）



図4 7日17時30分頃の噴煙（京都大学防災研究所附属火山活動研究センター撮影・提供）

● 薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル2）】

噴煙活動は依然としてやや活発で、硫黄岳山頂火口から白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね600mで推移した。火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過している。

● 口永良部島 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている（今期間27回、前期間40回）。今期間、火山性微動は観測されず、監視カメラ（新岳の北西約4kmに設置）による観測では噴気等は認められなかった。

● 諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル3）】

今期間、噴火は観測されなかったが、5～8日に火山性連続微動が観測された。火山性地震は少ない状態で経過している。

表1 最近1か月に記事を掲載した火山及び各火山のレベル

概況番号	対象期間	北海道		東北		関東・中部地方				伊豆・小笠原諸島				九州地方																				
		雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆東部火山群	伊豆大島	三宅島	福徳岡ノ場	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山(新燃岳)	霧島山(御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル
																					記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル
23	6/2-6/8	●	●	●	①	①	●	②	◇	①	●	●	①	●	②	①	①	①	▲	②	●	②	●	②	●	②	●	③	●	③				
22	5/26-6/1	●	●	●	①	①	●	②	◇	①	●	●	①	●	②	①	①	①	●	②	●	②	●	②	●	②	●	③	●	③				
21	5/19-5/25	●	●	●	①	①	●	②	◇	①	●	●	①	●	②	◇	②→①	◇	▲	②	●	②	●	②	●	②	●	③	●	③				
20	5/12-5/18	●	●	●	①	①	●	②	◇	①	●	●	①	●	②	●	②	●	▲	②	●	②	●	②	●	②	●	③	●	③				
19	5/5-5/11	●	●	●	①	①	●	②	◇	①	●	●	①	●	②	●	②	●	▲	②	●	②	●	②	●	②	●	③	●	③				

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
雌阿寒岳	火山観測情報第32号	5日 16:00	活発な火山活動が継続。5月29日～6月5日15時の活動状況。
浅間山	火山観測情報第22号	2日 16:00	5月26日～6月2日15時の活動状況。レベルは2。
三宅島	火山観測情報第153～159号(1日1回発表)	2日～7日 16:30 8日 17:10	前日16時～当日16時の活動状況及び上空の風の予想。
桜島	火山観測情報第1号	4日 17:40	4日16時頃、昭和火口付近で噴煙を確認。レベルは2。
	火山観測情報第2号	5日 17:20	4日の噴火のその後の経過。5日に行った現地観測および上空からの観測結果。レベルは2。
	火山観測情報第3号	7日 18:40	7日17時30分頃に発生した噴火の状況。レベルは2。